

テーマ： 環境経済論を学ぶ

—環境と経済の複雑な関係を考える—

関連の深いコース：サステイナブル経済・経営コース

1. このテーマの目的

今世紀の最重要な課題の1つに、地球環境問題に対してどのように対処していけばよいのかという課題がある。深刻化しつつあるこの問題は全ていろいろなレベルの経済活動に沿って発生しており、その対策を考えるためには経済自体の仕組みとそこでのさまざまな経済主体の行動・影響と環境問題の関係を理解することが不可欠である。

そのために財・サービスの「選択」と「交換」の機能を果たす市場の働きとその限界を理解することに加えて、市場を取り巻く環境を含む自然資本、インフラストラクチャー、制度資本などのさまざまな社会的共通資本の役割を理解することも重要である。

とりわけ、環境問題はどのようにして通常の市場経済のなかでは上手く取り扱うことができないのか、その問題を克服するためにはどのような対応が制度面を含めて必要なのか、といった問いに答えるための基本的理解がきわめて重要であり、その理解を前提に、望ましい対応や政策が選択され、またそれらの評価が行われなければならない。現実にある多様な環境問題を反映して、その対応・政策もじつにバラエティに富んでいるが、対応・政策間での得意、不得意な点を経済のなかで体系的に理解し、現実に応用していくことが求められている。

また、さまざまな形で存在する自然資源・自然資本の安定的な利用に関しても、大きく分けて市場の枠内で対処する方法と組織内で対処する方法の2つの方法があり、それぞれの方法の中で長期的な観点からサステイナブルな形で利用するための条件を吟味することが重要な課題となる。

たとえば、組織的な対応の著名な例として世界各地に歴史的に存在してきたさまざまな形態のローカル・コモンズ（local commons）があるが、対象とする自然資源などの資源利用がいかんして持続可能な形態となって存在して来たのか、また今後それらのローカル・コモンズを安定的に維持して行くにはどのような視点や制度改革が必要なのかなどを探ることは興味ある課題の1つである。

2. テーマに関連した推奨科目

環境経済論Ⅰ・Ⅱを学ぶためには「展開科目」のなかで社会科学分野を中心に幅広く学び、総合的な理解を得てほしい。とくに関連している科目としては、**ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ**、**マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ**、**公共経済学**（以上は基幹科目）、**環境経営論Ⅰ・Ⅱ**（政策科目）などのサステイナブル経済・経営にかかわる専門科目がある。コモンズに関しては**地域コモンズ論**（政策科目）とも関連している。